

SEISHU

青洲

5th

anniversary

創立記念日

沿革

平成 31 年	1 月 8 日	校舎起工式		
令和 元年	7 月 17 日	校名を「山梨県立青洲高等学校」と公表		
	10 月 4 日	県議会定例会で「校名」を可決		
令和 2 年	2 月 27 日	校舎完成	4 月 8 日	開校・1 期生が入学
	8 月 6 日	弓道場完成		
令和 4 年	2 月 16 日	屋内体育館完成	5 月 26 日	校歌・学生歌制定
令和 5 年	2 月 9 日	テニスコート完成	3 月 28 日	グラウンド完成

校名

明治期に私立図書館として、地域の学問拠点となった「青洲文庫」に由来します。また、「青」には青春を謳歌する若者のイメージを重ね、「洲」には三清流（富士川、笛吹川、芦川）に囲まれた地形の意味を込めています。3校それぞれの伝統を継承する青洲高校が、未来の峡南地域の学問の拠点となってほしいという願いも込められています。

青洲文庫

青洲文庫は明治 33 年(1900 年)に完成しました。文庫には、渡邊家が、寿（青洲の父）、青洲、澤次郎（青洲の長男）の 3 代にわたって、蒐集（しゅうしゅう）した書籍が約十萬冊収められていました。寿は主に和歌や国学の書籍を、信（青洲）は漢籍（漢文で書かれた書物）、史書、法帖（ほうじょう：手本・鑑賞用に、古人の筆跡を石ずりにした折り本）を、澤次郎は古書、浮世草子、洒落本などを蒐集しました。

今年は関東大震災から 100 年ですが、大正 12 年（1923 年）東京大学図書館は震災で全焼しました。その翌年、東京大学に青洲文庫の書籍約 3 万冊が譲渡されました。その時、伊藤博文が「青洲文庫」と揮毫（きごう）した扁額も寄贈されています。扁額のレプリカ（複製）は本校の図書館の壁に掲げてあります。

その後、青洲文庫は保存運動もありましたが、残念ながら、昭和 60 年(1985 年)に解体されました。残された土地は山梨中央銀行市川支店が買い取り、現在、銀行の入口近くに青洲文庫があったことを伝えてくれている碑が建てられています。市川本町駅から学校に向かう途中、文教通りにあります。一度、銀行の入口付近に立ち止まって、過去に思いをはせてみてください。

（参考：中込蘇編 郷土の先哲 渡邊青洲）

今年の 9 月、今村均さんが作製され、市川三郷町役場のロビーに展示されていた「青洲文庫の模型」が本校に寄贈されました。図書室の入口にありますので、左上の写真と見比べてみてください。

青洲の「学ぶ」姿勢は私たちのお手本となります。（祝）



渡邊 青洲